

平成 26 年度資源・環境関連材料部会見学会報告

今年度の資源・環境関連材料部会の見学会は、11月6日(木)、7日(金)の2日間、岩手・宮城県で開催した。参加者は、渡村部会長を始め、13名であった。

1日目、JR東北新幹線一ノ関駅に13時に集合。貸し切りマイクロバスに乗り込み、まず、宮澤賢治所縁の旧東北砕石工場跡地の「石と賢治のミュージアム」に向かった。賢治の作品に登場する鉱物の標本や賢治に関する資料等を見学後、旧東北砕石工場において、坑道に入り当時の採掘状況の説明を受けた。次いで近接している三菱マテリアル岩手工場に移動し、概要説明を受けた後、バスで移動し石灰石の露天掘りの長坂鉱山を見学。工場に戻り、リサイクル資源を利用したセメント原料の製造施設を見学。廃タイヤ、廃プラスチック、下水汚泥など鉄や粘土の原料代替として有効利用されていることに加え、有害物質の含まれている廃棄物の分解、無害化が進められている上にセメント製品の品質も保持されていることに「セメント焼成炉直接投入方式」という技術に関心を覚えた。夕刻となり、巖美溪の景観は観ずに宿泊先の巖美溪温泉に到着した。懇親会により参加者間の親睦を深めた。

2日目は、8時に宿泊先を出発し、まず、雄勝石復興センターにおいて、硯や食器への加工施設を見学した。食器としての需要が伸びており、制作が間に合わない状況との事であったが、被災した職人や若手の育成等の問題について説明を受けた。石巻への移動の途中、バスの乗務員から仮設住宅や津波により多くの児童が犠牲となった大川小学校について車中から説明を受けた。最後に女川原子力PRセンターにおいて、再稼働に向けての緊急安全対策について説明を受けた。再稼働に向けて、防潮堤のかさ上げ、緊急時の電源の確保、送水ポンプ設備の配備などを進めているとの事であるが、計画では防波堤のかさ上げの完了は、2016年以降との事であった。2日目は、巖美溪から雄勝、女川、仙台と6時間余りの長時間のバス移動となってしまったが、17時半に無事、仙台駅に到着し解散した。



石と賢治のミュージアム（旧東北砕石工場にて）



三菱マテリアル長坂鉱山



雄勝石復興センター



女川原子力PRセンター